



創刊昭和55年5月5日
第397号
【通巻398号】

発行所
まんにちほち
418こちら情報部
〒418-0063
富士宮市若の宮町140(きうちんさつ内)
TEL 0544 24-1515
E-mail: printkiuchi@space.ocn.ne.jp
印刷所
株式会社 きうちんさつ

6月、雨が多い月なのに「水無月」。紫陽花がみごとに咲いています。

五月の連休には、毎年、孫たちがやって来る。その都度、私達夫婦はプランを練る。考えているだけで、幸せになる。しかし、うまくいくことばかりではないのが現実だ。観光地は大混雑、疲労だけがお土産だったりする。今年は見物することではなく、心を遊ばせ、大人への道へスタートさせようと考えた。浮かんだのは「天ぷら屋」さんだ。力

何を書こうかな

孫と天ぷら

勝又 肇 (淀平町)



ウインター越しに揚げてもらい、会話しながら食べる。富士宮には一軒、知り合いの店がある。依頼してみると快く引き受けてくれた。当日になった。孫たちの緊張感が伝わってくる。「何を頼むの」と聞くと、「サツマイモ」と返ってきた。まあ、それ位しか思いつかないのだらう。店へ入る、カウンターの中央に座る、孫たちを

望月 勝
た。御主人が「嫌いな物ある」と言ったが返答しない。黙って見ていた。塩とレモン汁を使った食べ方をちよつと伝えた。食事が始まって約一時間、全てが快食だった。魚嫌いの孫がメゴチを食べる姿に感動すら覚えていた。最後はおにぎりで締めてもらった。帰り道、孫たちの姿を眺めたら、堂々と胸を張って歩いているように見えた。

朝晩もずいぶん暖かになり、過ごしやす季節になりました。なかに真夏のような陽射しの日もあり、新緑の木々を一層、鮮やかに見せてくれます。暑いなか、心地よい風が渡ってくる、何とも言えぬ清涼剤に感じられます。吹く風には色も形も見えませんが、新緑のなかを吹き

秋の気配がし始める時期には「色なき風」、秋には「金風(きんぷう)」という季語もあり、風もまさに色とりの感があります。色々な風に吹かれると、それにつられて私達の心も色々に変化しますね。また、私達の心の状態によって、風も様々な色に見えるのかも知れません。けっして同じ日、同じ時間には二度とやってきませんが、今、自分が感じられる「風」を大切にしたいと思いませんか？

くらしの言葉から

風

渡るさわやかな風は「緑風(りょくふう)」と言われ、もう少し強い風は「青風(せいふう)・あおらし」と呼ばれます。

最近、ふと口に出て来る短歌がある。「東風吹かば、匂いおこせよ、梅の花、主無しとて、春な忘れそ」である。高校時代に古典の授業で無理矢理、教師から暗記させられた歌の一つである。当時はこれらの歌の深い意味など若かった私には全く理解できなかったし、そもそも覚えようとする気にならなかつた。そして古典の先生

角田猛夫
がその素晴らしいさを繰り返せば繰り返すほど、私は古典が大嫌いになっていった。そんな訳で大学受験の時には古典が全く分からず、あらゆる種類の古典の訳本を買って来て、口語訳を丸暗記して受験に臨んだ。自己弁護する訳ではないが、人生が良く分かっていながら、当時の私達に古典の面白さに興味を持たせ、教える法があつたはずである。しかしながら、人生が漸く分かって来た今は無理矢理暗記させられたことを心から感謝している。



富士の景

潮風の吹き渡る中、望嶽の絶景の地「薩埵峠」へ赴く。興津駅から薩埵峠を経て由比駅までの所要時間二時間三十分の一步一步は、さながら道道歴史をたどる道程だった。街道の時代、赤穂義士の中のひとり大高源吾は、『丁丑紀行』で、薩埵山にて村雨す、(中略) 下の道を通ると、
「稲妻と走りぬけけり親知らず」
(薩埵峠は、東海道の難所の一つといわれていた。)
——(村上龍昇著「富士千句集と作家群像」静雪文庫)
「田児の浦ゆ うち出でて見れば ま白にぞ 不尽の高嶺に 雪は降りける」 (山部赤人)
その出合いの場所の「田児の浦」は、いまの富士川河口東方の名勝田子の浦(富士市)ではなくて、沢瀉博士がいわれるように、富士川河口西方、蒲原・由比・薩埵山麓・興津東方にかけての弓状をなす海浜であろう。(中略) 足下に「田児の浦」が展開し、前方、今宿へと湾入した海の向うに意外に大きく白雪の富士の全容があらわれる。富士は蒲原の北の金丸山を真下にふまえ、右に愛鷹・足柄をしたがえ、遠く伊豆の山々におよんでいる。「田児の浦」ゆうち出でて見れば……はここでも実感としてよみがえってくる。広重の五十三次由井の絵もここでの景をとらえたものだ。(犬養孝著「万葉の旅(中)」教養文庫)
ここに、薩埵山(二四四メートル)東西の急な崖の山裾は海岸に沿って東海道本線や国道が走り、——とりわけ峠から西倉沢まで一キロ半の崖の細道は、下を見れば「近代」、前を見れば「万葉」、また「街道」の富士が座す。おりしも、富士山の世界文化遺産登録を目前にひかえ、いよいよ、富士山は日本のシンボルから世界の宝に。

雲上の素顔を見遣る雪解富士
KEN III

静岡県立朝霧野外活動センター
「プラネタリウム一般開放
～夏の星空と七夕物語～」
家族で夏の夜空を楽しもう！
日時:23日
1部 13:15～受付 13:30～14:30上映
2部 15:00～受付 15:15～16:15上映
場所:静岡県立朝霧野外活動センター
対象:ご家族など一般の方
参加費:無料
定員:各回90名(要予約)
申込方法:お電話にてご予約ください。
詳細は後日センターHPにて発表いたします。
TEL:0544-52-0321
HP:http://asagiri.camping.or.jp/index.html

伝言板

